

■世進電話双六（よはすすむでんわすごろく）の解説

本双六は、明治 26 年（1893）に福田熊次郎（※ 1）が発行したた広報宣伝双六である。画家は不詳である。日本では、明治 23 年（1890）に、初めて東京・横浜で電話サービス開始され、電話加入者人名表が発行された。本双六は、その 3 年後に発行されており、将来の電話の普及を見越した先見性のある双六といえよう。事実、49 年後の昭和 14 年には 100 万の加入に達している。戦前における電話加入は、高価な資産であり、社会的なステータスでもあった。戦前における電話の普及状況については、表①を参考にされたい。

明治 30 年（1897）に電話交換規則が制定され、加入登記料制度が発足した。当初の加入登記料は 15 円（電話加入権のはじまり）だった。大正 14 年（1925）に特別開通制度（早期加入）が発足した。当初の東京での設備費負担金 1,500 円、工事負担金 1,550 円だった。因みに、明治 40 年における尋常小学校の校長の年収は 400 円、大工・左官の年収は 200 円という時代であった。現代のスマホの所有とは次元が異なる経済的価値があったことを理解しておかなければならない。

双六の構成を見てみよう（表②）。振出しは、緊張して電話をかける主人と家族である。添え文には「わたくしは 12 万 3400 号 新年あけましておめでとうございます」とある。12 万 3400 号とは加入の順番であろうか。以降、料理屋、舟遊び、初荷、旅行、温泉、会社、買物、新年宴会、歌舞伎など新年に因んだマスなどに飛ぶが、ここに、面白い趣向が凝らしてある。各マスは電信柱を通じて、電話線で繋がれており、サイコロの出目にしたがって進む、飛び回り双六になっている。電話という文明の利器は、暮らしの隅々にまで役立つことが描かれている。上りは富士山を背景にした宮城である。国を挙げて電話を普及させたいという気概が伺える。

本双六の裏面は、明治 23 年（1890）12 月の「東京・横濱 電話加入者人名表」である。日本最初の電話交換の写真も添えてある。電話史に残る資料といえよう。資料の③加入者名、資料④の加入者の簡単な解説の一覧表作成してみた。参考にされたい。東京は 2 6 9 番、横浜は 6 0 番までの番号が振られており、官公庁、民間会社、個人などが記載されている。欠番もある。この電話加入者人名表を見ると以下のことがわかる。

- ・明治時代の産業基盤の礎を築き、日本経済を支える官公庁・銀行・鉄道・新聞社、財閥創設者、民間企業・外国の貿易会社、経済人、政治家等が並んでいる。
- ・渋沢栄一及びその影響下にあった企業や経営者が多い。
- ・米や繊維・生糸などの相場に関わる企業、新聞・通信社、運送業、銀行など、情報のスピードが競争力を生む事業会社が加入している。
- ・「電話加入者人名表」こそが、最大のセールスツールになっており、双六の裏面を見て、

購入を急いだ御仁も多いのではないかな。

電話は、形態は変わるも、今日においても最先端の情報機器であり、日々そのイノベーションが行われている。130 年以上も前の双六であるが、電話の本質とその利点を明快・簡明に描いている。

※1 福田熊次郎：生年不明 - 明治 31 年（1898 年）。明治時代の東京の地本問屋。具足屋と号す。具足屋熊次郎、熊治郎、熊治良ともいう。具足屋嘉兵衛の子。小林清親、井上安治、落合芳幾、豊原国周の版元として知られたほか、3 代目歌川広重、5 代目歌川国政の作品を出版している。

表① ■電話の普及の歴史（戦前）

年	出来事
1876 年（明治 9）	グラハム・ベルによって発明され、翌年に日本に輸入された
明治 23 年(1890)	東京・横浜で電話サービス開始され、電話加入者人名表が発行された
★明治 26 年（1893）	本双六の発行年
明治 33 年（1900）	新橋駅と上野駅に公衆電話が設置された
明治 39 年（1906）	太平洋横断海底ケーブル布設
大正 2 年(1913)	日本の電話加入者 20 万 271 件
大正 11 年(1922)	全国の開通加入者数 40 万人を超える（東京は 8 万 ）
昭和元年(1926)	自動交換方式（ダイヤル式）が導入された。全国の電話加入数 50 万突破、100 番・火災 112 番など特殊サービス始まる
昭和 5 年(1930)	写真電報取り扱い開始（N E 式）
昭和 11 年(1936)	慶弔電報の取り扱い開始
昭和 14 年(1939)	全国の電話加入数 100 万突破（東京は 16 万 2494）

表②

■世進電話双六の構成

歌伎芝居	上り		新年宴会
江の嶋	(富士山が背景の宮城)		元始祭
年始	華族別荘	御役所	旅行
會社	買物	日光宮	温泉
銀行	初荷	船遊	御約束
休業	ふり出し		御料理